

須坂学園構想基本方針（案）地域説明会

- 1 日時：2025 年 8 月 4 日（月）19～20 時 50 分
- 2 対象：第 3 ブロック
- 3 会場：森上小学校 視聴覚室
- 4 参加者：17 人
- 5 市教育委員会：
勝山教育長、中村教育次長、若林学校教育課長、安川係長、
後藤主任指導主事、北村指導主事、西原指導主事

◆参加者 ◇市教委

（１）小中一貫教育校の全国的状況と導入時期について

◆参加者 A

私は森上小学校に通学している子の祖母です。

- ①小中一貫校は全国にどのくらいあって、これから進めて行こうとしている学校はどれくらいあるか教えてほしい。
- ②一斉に小中一貫校になるんじゃなくて、徐々にとなると、第一学園は早く一貫校になって、他の小中学校はもっと後になるので、この差はどんな風になるのかなということです。
- ③今の話を聞いていると、もうこれを進めていく、もう全部出来上がっているっていう風な感じで、私たちが話しをしてもあまり意味がないのかなっていう風な思いはしました。

◇市教委

- ①小中一貫校が全国にどれくらいあるかとのことですが、先ほどの説明の中でも説明しましたが、このグラフですね、全国でも年々増えています。県内でもこれから新しい学校を作ろうという動きがあちこちであります。どこの地域も小中一貫教育を重視しています。具体的に、栄村が義務教育学校を作りたいといったニュースがあります。諏訪市でも小中一貫教育を全市的に進めています。これからどれだけ増えるのかというところは、このグラフのとおり、どんどん増えていくのかなと感じています。
- ②小中一貫校とそうでない学校に違いが出てしまうのではないかとのことですが、正直、小中一貫校の方が一貫教育を進めやすいというのは確ですけども、一貫校でない学校でも同じカリキュラムで教育を進めて、その差ができるだけ出ないように進めたいと思っています。
では、一気に全部やってもらえないかという方もいると思うんですが、市内全部で一気にやるとなると財源的にも、準備をする人員的にも十分ではないですので、学校の小規模化が喫緊の課題となっている地域から先に進めたいと考えています。
- ③それから「絶対にこれを進めていくという風に感じた」「今から何言ったってもうどうしようない」と感じられたということですが、我々はこの基本方針案を作成して、今皆様に案を説明していると

こです。この案に様々なご意見いただく中で、修正する必要が出てくれば修正も考えています。

（２）小中一貫教育での中学進学といじめ・不登校の対応について

◆参加者 A

④小学校に行っている子どもが私立中学に行きたいと言った場合はどうなるのか。

⑤いじめが増えないって言いましたが、私の知り合いで、埼玉から来たんですけど、小学校の時に不登校だったけど、中学に行ったら友達ができ、いじめの子と接触しなくなったということも聞きます。一貫校でいじめが増えないのは、いじめられていた子がずっといじめにあっているのではないかなって思って、例えば小学校４年でいじめにあったとすれば、中学３年までいじめが続いているという懸念もある。そういう子どもの対応はどうなるのか。もちろん、小学校では行っていて、中学校で不登校になる子もいるんですけど、その逆のパターンもあると私思いました。

◇市教委

④中学に進学するときに私立に行く場合はどうするのかとのご質問ですが、先ほど紹介した王子町の義務教育学校は９年間で一貫教育をやっています。王寺町でも１割くらいの子は私立の中学校に進学していますが、特に問題はないとお聞きしています。小中一貫校でも文科省の学習指導要領に沿って学習を進めていますので、途中で私立に行ったとしても特に問題はないと考えています。

◇市教委

⑤いじめがなくなるという説明ではなくて、不登校の子が中学で増えないということです。王寺町の中学校では増えないとお聞きしました。それは義務教育学校では、小学校から中学校に行くときに学校が変わらないので不登校は増えないとの話でした。

いじめについては、増える、増えないということは申し上げていません。ただ、どんな形態の学校でも、その対応は細やかにやっていかなければいけないと考えています。

◇市教委

いじめをゼロにできるかと言ったら、それは約束できないです。現状でもあるし、環境変えてもある。それから不登校問題は、須坂市でとっても大事にして対応している。今、一生懸命やっているが、なかなか効果が出ないんです。この小中一環型学校を作ると、効果が出ているという話をしましたが、ゼロになるという話ではないことをご理解いただきたい。

（３）小中一貫教育における学校区の複雑さと地域の課題について

◆参加者 B

私もこの森上小学校、相森中学校に通学していました。森上小は、中学校が変わってしまいます、八幡町と境沢町だけが墨坂中へ行く。隣の小山小は屋部町だけが墨坂中へ行く、それ以外は常盤中へ行く。日滝小の場合は相森町だけが相森中へ行く。確かにギャップ感がありました。

この学園構想、小中学校の統廃合は少子高齢化社会でやむを得ないし、上手くやっていくしかない。市外の私立の学校に行く子どもいる。また、育成会組織に入るのが嫌で市外の学校に行くという話を聞いたので、小中一貫校も大切じゃないかなと思います。

また、今、山ノ内町でも小中一貫教育の検討を始めている。中野市で残念だったことは、日野小と延徳小が統合できなかった。それと、平野小と高丘小も統合もしなかった。北側の高社小学校だけが統廃合した。話がまとまらなくすみません。

（４）小中一貫教育における多様な価値観の出会い、不登校対応、通学の課題等について

◆参加者Ｃ

- ①多様な価値観との出会いを大事にしたい、そのためには大勢の子供がいた方がいいという説明をしていましたが、例えばスクールバスで通ってしまうと学校だけになってしまう。通学の時に、昆虫に関心もったり、草花に関心もったりということがほとんど無くなってしまう。その生徒にとってみても、いろんな価値観に出会う場所が限られてしまうんじゃないか。それから、地域の人との結びつきもとても大切だと思うんです。私は小学校、中学校の作文を読む機会がたくさんありまして、そうすると小中の子供たちが地域の人と繋がることで、登下校の途中に会うことで、色々な価値を見出すっていうことを書いている作文がたくさんあります。そういう意味で多様なところで、子供が価値を見つけるということが限られてしまうことを残念に思っております。
- ②中一ギャップについて、義務教育学校や小中一貫型学校と小中別々の学校の場合の不登校の数がどの程度違うのかというグラフでないちょっと判断しにくいと思いました。
- ③時間割について、今１時限の数が小学校と中学では違うと思いますが、それをどのように解決していくのでしょうか。

◇市教委

- ①スクールバスに乗るといろんな価値観に出会う機会が減るのではないかとありますが、確かに道路を歩くのと乗り物では違いが出るということは確かだと思います。ただ、全ての子がスクールバスで通うということではないです。健康のためにも近い子は歩きます。今もそうですが、中学校は４km ぐらいで自転車通学もあります。ただ、遠くのお子さんは大事な命ですから、安全面でスクールバスを利用するということです。

ご意見のような多様な価値観も大事だと感じましたが、ここで言う多様な価値観というのは、学校の学びの中での多様な価値観です。須坂市は非常に人口減少が進んでいます。今の段階でも人数で割ると全ての学校が単級になります。そうすると出会う人の数、友人の数も減っているということです。このままの状態にして、この時期に手をつけないと、学びの中の多様な価値観の触れ合いができにくいと判断しています。

◇市教委

- ②一貫校とそうでない学校の不登校の児童生徒数について、須坂市にはまだ一貫校がないのでお示しできません。他の地域については、グラフは入手していませんが、言葉では新規の不登校はないとお聞きしています。

◇市教委

③小中一貫校の時間割について、今小学校では通常 45 分、中学校で 50 分という形です。信濃小中学校では昨年度まで、基本 45 分プラス 5 分という日課に合わせて、45 分で授業を切って、残り 5 分自由は使ってもいいという形で、チャイムは 50 分。本年度からは 45 分で統一して、中学校では 5 分短くなる分を、まとめて 1 日の終わりのところで、復習の時間、ドリルの時間としています。それから分離型の場合には 1 年から 4 年生までは 45 分、5 年生から 9 年生までは 50 分というように、それぞれの校舎で時間割を分けるというようなことをやっている学校もあります。

(5) 学校現場から：森上小学校の現状と児童数減少による教育・支援体制の課題について

◆参加者 G

今の森上小学校の様子を皆さんに知っていただきたいと思います。私は今 3 年目ですが、1 年目は、1 年生が 1 クラス、2 年生以上は全学年 2 クラスありました。今 3 年目ですが、2、3、4 年生が 1 クラスになりました。1 年生と 5、6 年生が 2 クラスです。

2 クラスのところは 1 クラス 22 から 25 人です。1 クラスの学年は 35 人近くの人数です。

4 年生は、1、2 年生の時 2 クラスありました。それが 3 年から 1 クラスになってしまった。どうしてかということ、転出される家庭があったり、学びの場の見直しで通常学級から特別支援学級に移ったりするお子さんがいて、2 クラスだった学年が 1 クラスになることがあります。

例えば、特別支援学級の子どもは、特別支援学級で全部を学ぶわけではなくて、理科や社会などは自分の元の通常学級に戻って、みんなと一緒に勉強します。そうすると、通常学級としては 35 人を切っていますが、その特別支援学級の子が戻ってきて、修学旅行の計画や社会、理科の勉強と一緒にやると 38、39 人を 1 クラスで進めるということになります。そこで担任 1 人でするので、1 人で多様な学びにつなげる授業展開をどうしたらいいか、非常に苦しいところであります。

いろんな職員等ももちろん相談するんですけど、学年で担任は 1 人ですから、その学年は私が進めなきゃならないという気持ちになります。1 人に負担がかかるということがあります。

2 クラスの学年は、教科担任制とまではいかないけど、ある先生は体育専門でやって、ある先生は図工を専門でやってきたので、体育と図工で交換授業をしながら進めています。学年会も 2 人で話しますし、家庭へのお便りも 2 人で交代しながら書いています。これが 1 人になってしまうと、毎週毎週 1 人でお便り出さなきゃいけないという負担もでできます。2 クラスあるところは、子どもたちのより良い学習に繋げるためにはどうしたらいいだろうと色々相談しながら話せるところがあります。だから 1 学級で担任 1 人が進めるというのは、その先生に負担がかかっていくということです。

また、子どもたちも 1 学級の学年は固定化しがちなので、やはり多様性を考えていくために、異学年集団での学習に取り組んでいます。運動会の種目や児童会関係で仲良しグループというのを作って、そのグループを活かしながら、1 クラスの学年が固定化しないように、上のお兄さん、お姉さん、下の妹、弟と繋がっていけるように取り組んでいます。

総合的な学習でも、自分がやりたいグループに加わって学習をしました。今までの自分のいた学校の規模だと同じテーマできない、グループごと集まってはできない。2 学年あることで、色々な価値観も持つ友達との関わりによって、自分の考えが変わったり、いいアイデアもらったり、勉強の進め方

も、クラスごと、あるいはグループごとに多様化していると感じている。

先ほど、不登校やいじめの話が出ましたが、幸い森上小学校では、完全な不登校、1日も学校に来られない子どもはいません。いじめは、職員間で連絡会をもって、ちょっとしたことでサインがあったら、みんなで考えて、早期発見早期治療じゃないですけどそんな心がけています。

（６）スクールバスの運行と通学の安全確保について

◆参加者 A

スクールバスは、体調不良になって遅刻しそうになった場合は、学校が迎えに来てくれるんですか。または親が連れいくということでしょうか。

私は新潟県の村ですけど、そこでスクールバスで通っていた子がいるんです。親が仕事休んで送ってくとか、おばあちゃんが今まで行ってたけど、車の運転ができなくなっちゃったとかで、その子は学校を休んじゃったって話も聞きます。

この前、栄村の新聞で読ませていただいて、あの最初 80 や 90 の人たちの意見も全員の話聞いて、色々学校に活かしていくっていう風なものがありました。けれど、私もここで初めて聞くんですが、地域の人たちの声をもっと聞いてもらってれば、また違う意見とか案も出たんじゃないかなという風に思うんです。本当にバスが通らなくなってしまうような危険があるので、そういうものの対処方法を教えてください。

◇市教委

通学距離が伸びてしまう場合にはスクールバスを考えています。

体調不良で朝間に合わなかった場合はどうするか、バスのコース、時間、そういうところはこの次の段階で検討します。基本方針が決まって、新しい学校を作るといった時にスクールバスについて、地域の人たちの意見も聞きながら、またスクールバスを運行している全国の自治体の様子も参考にさせていただきたいと思っています。

◆参加者 D

旭ヶ丘小学校の 1 番遠いところ、例えば松川町の子どもが、夏の炎天下、冬は豪雪の時もあります。その時に相森中学校まで小学 1 年生の子どもをその距離を歩かせるのか。

それはかわいそうだから、スクールバスを出すとなると、先ほど言われた運行方法の問題が出てくるんです。決まってから考えると言われましたけど、その対応、予算もつけるということを出さないとダメだと思います。

◇市教委

松川町の子を相森中学校まで歩かせるのかとのご質問ですが、その辺はまだ何も決まっておられませんのでお答えすることができません。

◇市教委

今の学校でも同じことが起きていて、例えば豊丘小学校は 1 年生でも 40 分かけて歩いている子もいる。ですので、学園構想の機会に学区についても自治会の方とも相談しながらやっていきたいと思っ

ています。

（７）学級定員基準の将来的な見通しと教育環境の改善について

◆参加者 E

学級定員が 35 人で計算されていますが、20 年前に長野県は率先して当時 40 人学級だったのを 35 人にした。その後、国が 35 人にした。35 人が未来永劫続くわけではない。30 人になったり減っていく可能性もあるんじゃないか。諸外国の先進国見ても大体 20 人くらいのでやっているところが多い。

日本の子どもが他国に比べて、本当に自殺者が多いってことを考えると、学級定員のことが必要だったら須坂が率先して減らしてみるとか、そういうことも考えてもいいんじゃないか。

◇市教委

私は定員が減ればさらにいいと思っています。先生が増えますし、クラス数が増える。

市で独自でつけろということですが、それができれば各市町村でやっていますが、あくまでも教員配置は県が持つものです。須坂市でも今、講師を入れていますが、財政状況の中で限界があるということを知っていただきたい。

（８）地域説明会の期間・協議のあり方についての要望

◆参加者 F

この地域の学校のあり方が、豊丘小学校のあり方にも大きく引くので是非発言させていただきたい。「須坂市の小中一貫教育」に学校のことは決まってから、地域の人々と協議会で共同してやっていくと書いてあります。でも、なぜそういうことが、今学校を決める段階でできないのかということをお聞きしたい。

今、豊丘小学校について豊丘で話し合いをして、必要なら２回目の話し合いを待つということですが、森上の方でこの案に賛成だっていう風になると、豊丘は身動き取れなくなってしまいます。

この構想に反対というわけではありません。少子化で大変な時代を迎えています。ですから教育委員会は大変なご苦労している。それは本当によく分かる。ただでも５年間かけて一生懸命やってきたと言いますが、この地域説明会は、８月までで市民との話し合いは８ヶ月、自分たちが作ったのは５年間。そういう差でもって、私たち市民が本当に分かるんだろうかっていうことです。私たちの求めていることはもっと時間をかけて話し合いたい。そんなにいいことならば、もっと私たちも理解して教育委員会に協力したい。この構想に反対ってことではなくて、もう少し時間をください。もう１年かけてもいいんじゃないかと。今年度中に決めなければいけない決定的な理由が私は理解できないのです。

それから、昭和の初めに小山小学校か、須坂小学校から独立してこの森上小学校になりました。その時に先生と子供たちがみんなで協力して、この学校を作ったんです。そういう地域の子もたちと先生と地域の人たちが一生懸命磨いてきた学校、それが今の校長先生がここで素晴らしい教育実践を

することを可能にしている。

それからこの校庭でどんどん焼きやります。須坂中で一番素晴らしいと僕は思うんです。そういう出来事が子どもの心を育て、この地域を素晴らしいものにしていると思うんです。

それがね 30 年後になくなっちゃう。遠い先だからいいということじゃなくて、今日地元の人が参加が少なくて残念ですけども、そういうことが 100 年史に書いてあります。地元の人を読んで、どんなに学校が貴重なものなのか、それをどうやって残していくのか、自分たちがしっかり考えていただきたい。あるいはそういう風な形で、埋め立てを教育委員会にはしていただきたい。

質問の第 1 点は、なぜ 3 月いっぱいにかかわるのか、決定的な理由を知りたい。また、時間をかけて話し合いをした方がスムーズに進むのではないかということ。それから今のデータでは 10 年間のデータですけども、30 年先には学級定数も全然違うかもしれない。それを今決めろというのは大変無理なんじゃないか、という 3 点についてお聞きます。

◇市教委

これで学校再編がスタートしますって言っても 1 番早い学校はこの後、スクールバス、校歌、カリキュラムをどうするか、地域をどうしていくか、そういうことを検討しなければならない。従ってどんなに頑張っても 5、6 年間はかかるということです。

この後、スクールミーティングをやっていきながら、そこで地域の方や有識者、関係者でミーティングをして、カリキュラムから全部やってようやく、それと同時にどんな学校や教室がいいかという意見も聞きながら、設計に入れる。そういう手順を取っていく必要があります。

例えば同じくらいの規模で諏訪はもう数年前からもうやって 1 つ統合しています。辰野や栄村もどこも動いて、須坂市はそれを教育のやり方からずっと追ってきたので 4 年間かかりました。できるだけ皆さんのご意見で変えることは変えて、スムーズに行けることであれば全体は進めていくということです。

第 1、2 学園は 6 年から十数年後です。30 年後になったら変わる可能性いくらでもある。我々もそこまでは見通しができない。ただ、この方法で進めていきますってことですが、もしかしたらもっと地域が大勢になって、1 個じゃダメだとかが、学校の編成をしなければならないということも出てくるわけです。森上小学校は、須坂小が大きくなったから分離した学校です。できた時には分離するとは考えていなかった。ですから、その時代の流れで進めていくってことしか今は方法がない。全部透明にして、ご提案をするということには限界もあるということです。1 校であればできますけども、全体となると難しいことはご理解いただきたいと思います。

閉会